

オワリカラ

O W A R I K A R A



カワノケンタ(Ds) ツダフミヒコ(B) タカハシヒョウリ(Gt&Vo) カメダタク(Key)

あなたの次のドアでいたい

扉を開けば、そこに……。オワリカラからはじまる、“新たな”クールの誕生。

Birth Of The New Cool From THE END

爆死したジャズメンのようなリズム隊、機材の砦に住むジミー・スミス、
ジム・モリソンの墓を暴く唄うたいが在籍する、サイケデリックニューウェイヴバンド。

The Doors, David Bowie, Inoue Yosui, The Soft Machine, Prince, Tokyo Rockers, TACO etc...

時空を飛び超えて、自由にフェイヴァリットをさがしだす、YouTube 世代の行進は始まっている。

2008 年春のライブ活動開始以来、わずか 1 年にして、

東京のインディーズシーン各地で、話題が話題を呼ぶ要注目バンドに。

最新 DEMO CD「OWARIKARA 2009」は、ディスコユニオンのインディーズチャートで1ヶ月以上連続1位を記録。

サイケデリックでありながら、現代感覚あふれる「都市の音楽」(=シティポップ)として機能し、
ダンスミュージックの快感を保ちつつ、日本語による歌モノとしても成立している。

精緻なアンサンブルと強靱な音圧。そして、それを突き抜けて響きわたる歌声。

日本産の健全な 20 代半ばの若者たちによる、最新型ポスト「ポストロック」。2010 年代の「ニューウェイヴ」。

たとえば、緻密にプランされたプラモデルをじっくりきっちり組み立てて、いざ完成してみたら、
いきなり超合金のロボットにトランスフォームしてしまって、やんちゃに動き出している……みたいな。

P is for Psychedelic

オワリカラにまつわるいくつかの「P」 ---PROPAGANDA FOR OWARIKARA---

■タカハシヒョウリ Guitar & Vocal

オワリカラの頭脳にして、コントロールタワー。弁舌さわやか、「今」の東京インディーズシーン百花繚乱の一翼を担う若きオピニオンリーダー。「サイケデリック」というコトバに深い愛着を持つ、オワリカラの「Mr.Psychedelic」。13th フロアエレヴェイターズがこのコトバをハジメテ使ったときに、「Psychedelic」が「Cool」と同義語だったとしたなら、まさに彼こそ「Mr.Cool」。新たなクールの誕生は、大いなる個人主義者、タカハシヒョウリのほとばしる「熱」からわきおこることと知るべし。スマートな佇まいからは思いもよらない、よく響き、よく届く、強い歌声。そして鮮烈なギタープレイ。シンガーソングライターとしてのソロ作品、『タカハシヒョウリ大いに歌う』も発表している。十代から始める音楽革命講座「Professor」(教授)。あなたの耳もとでささやく優しき「Preacher」(伝道師)。オワリカラがひとつの独立国だとしたらまちがいなく「Prince」。サディスティックな、サイケ王子の快進撃に瞠目せよ。

■カメダタク Keyboard

オワリカラが最先端のシティポップ(都市に生息する音楽)であることを証明する、ヤングシティポッパー。もしジミー・スミスが 21 世紀にテレポートして、最新のシンセサイザーを目の前にしたら……。たとえば、東京ロッカーズの時代……LIZARD のコウ、8 1/2(はっかにぶんのいち)の上野耕路らが空間をねじまげていた「Psychic」な音の放射に比する、エキセントリックな水しぶき、マイナスイオンを浴びたいのなら……。最年少にして、もうひとりのフロントマン。ステージの中央で鍵盤と戯れる、オワリカラの「Mr.Pop」。涼やかに、飄々(ひょうひょう)と。思うがままにステージで遊ぶ姿は、もはや「Pop」を超えて、「Pretty」の域。まるで、レイ・ブラッドベリが描くサーカス団の「Pierrot」。「Peanuts」のキャラクターたちにもひけをとらない、「Pleasure Land」の住人。

■カワノケンタ: Drums

オワリカラの「Mr.Progressive」。いわゆる「プログレッシヴロック」のくくりでも、十分にその立ち位置をクリアするスタードラマーだが、「Progressive」の本来の意味、「前進する」という点において、オワリカラになくてはならないエンジン。ひとたびギアが入ったら、重戦車がものすごいハイスピードで走ってくるような、思わず逃げだしたくなるような恐怖心さえ覚えるプレイを聴かせる。バンドきっての常識人であるにもかかわらず、ドラムセットに座った瞬間、鬼気迫る、いや、嬉々とした表情で、ひたすら王子の愛馬に倣するその姿に、怪人ぶりを感ぜざるをえない。ビートにとりつかれた「Prisoner」(囚われの人)。

■ツダフミヒコ: Bass

長髪をたゆたわせて、シュアーなベースラインをきざみ続けるさまは、まさしく「Phantom of the Paradise」。オワリカラにおける破壊と構築の「Producer」。あるときは「Poet」(詩人)であり、あるときは「Philosopher」(哲学者)であり、あるときは「Psychologist」(心理学者)であり、あるときは「Prophet」(預言者)であり、もしかしたら、ときには「Paranoia」(偏執狂)かもしれない……その実像は、ひたすら「Pure」に音楽に魂を捧げる「Player」(奏でる人)であり、「Prayer」(祈る人)。「P」がいくつかあっても足りない、オワリカラの「毒」を司(つかさど)る「Mr.Poison」。

【History】

- 2008/04 ライヴ活動開始
- 2008/05 自主制作音源『OWARIKARA 2008 DEMO CD 1st』(4 songs)をリリース。
発売より、ほぼ無宣伝でディスクユニオンインディーズチャートに2ヶ月連続 TOP10 入り。
最高位 4 位。2008 年度年間チャート 7 位。【限定 400 枚 SOLD OUT】
- 2008/11 自主制作音源『OWARIKARA 2008 DEMO CD 2nd』(6 songs)をリリース。
ディスクユニオンインディーズチャート最高位 3 位。【限定 500 枚 SOLD OUT】
- 2008/11/14 レコ発企画『ある朝目覚めたらデビッドボウイになっていた』
- 2009/04 ライヴ活動 1 周年を迎える。ライヴ年間 60 本。
- 2009/05/09 自主制作音源『OWARIKARA 2009 DEMO CD 3rd』(5 songs)をリリース。
ディスクユニオンインディーズチャートで1ヶ月以上連続 1 位。
- 2009/05/16 『ある朝目覚めたらデビッドボウイになっていた vol.02』
出演はマヒルノ、YOMOYA、Far France、早川義夫+遠藤里美
満員 200 人以上を動員し、サマーオブラブ状態。
- 2009/10/11 オワリカラ×あがた森魚でイベント開催
タカハシヒョウリは映画「あがた森魚ややデラックス」トークショーにも出演
- 2009/10/26 新宿 LOFT「DRIVE TO 2010」に出演
共演は頭脳警察/カーネーション/突然段ボールほかロック/NW の重鎮たち

